

#10

照明・音声 (LA)

## 選んだ音が生きるのがうれしい



今回は照明・音声 (LA) の七田千紗さんしちだ ちさにお話を伺います。10代のあるコンテストで自分の作った映像作品が高い評価を得たことがきっかけで、映像に携わる仕事がしたいと思うようになったという七田さん。映画監督になるという夢を胸に、今はテレビ制作の分野で照明や音声を担当。楽しく仕事をするを大切にしている七田さんは、「自分で選んだ音が生きるのがうれしい」と言います。そんな七田さんの仕事をご紹介します。

MC・リポーター  
米野真織

## 照明・音声 (LA) とは

テレビやラジオなどの撮影や収録で出演者や空間などに光を当てたり、人や周囲の音などを録ったりするのが照明・音声 (LA) の仕事です。ディレクターやカメラマンの望む明かりを当て、街の中でノイズを拾わないように音声をいかにクリアに収録するかなど、瞬時に考え、対応しなければならぬ経験や知識が必要となります。使用する機材も日々進化するので、常に勉強することも必要です。照明・音声 (LA) は、番組や映像などに大きく影響を与える、とても大切な仕事です。

## 照明・音声 (LA) 担当になるには

特に資格は必要ありません。音響や映像の専門学校や、芸術系の大学で学び知識や経験を得ることもできますし、映像関係の会社に就職して、現場で学びながら働くこともできます。どちらも入ってからは、ほぼアシスタントとしてキャリアをスタートさせ、働きぶりを認められてから仕事を任されるようになるようです。

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。



## 照明・音声 (LA) 担当・七田千紗さんに聞きました！

### 映像に携わる仕事をしていきたい

**米野**：この仕事に携わるようになったきっかけについて教えてください。

**七田**：10代のころから映像作品を見るのが好きで、いろいろな映像作品を見ていくうちに、自分もそういう映像を作ってみたいって思い始めて、自分でちょっと作ってみた映像をコンテストに出してみたところ、ちょっと評価されてうれしくなっちゃって、それで映像に携わる仕事をしていきたいなっていうふうに思ったときに、知り合いのディレクターさんに相談したところ、この仕事を紹介してもらいました。

**米野**：どんな映像を撮られたんですか？

**七田**：コンテストの趣旨としては、いろいろな問題が世界で起こっている中で、どういうふうにみんなが幸せになれる社会を築いていけるかっていうことを映像で表現したりとか考えさせるようなものを作るっていうコンテストだったんですけど、そのときに一緒に何かを作る仲間っていうのが全然なくて、全部1人でやらないといけないっていう状況の中で自分が作れるものは何かっていうふうに考えたときに、内省的でどちらかというみんなに向かって…っていうふうにしたものじゃなかったんですけど。

**米野**：どうして自分で映像を作ってみようっていうふうに興味を持たれたんですか？

**七田**：映像作品とかをたくさん見ていく中で、自分も作りたいなと思って映像を作ってみたときに、プロが作っているものと、自分がそのときに作れるものを見比べたときに、映像が伝えるものの力っていうのは大きいんだなっていうふうにスゴイ感じて、みんながそれをきっかけに考えられるようになったりとか、誰かを感動させたりとか、笑わせたりとかするっていうところが単純じゃない…複雑さがおもしろいなって思いました。

**米野**：見るのが好きっていう方で、実際自分で作ってみようってなかなか始められないですよ。

**七田**：今はすごく誰でも作れる時代になって、特別な大きな高価な機械とかも使わなくても誰でも映像が撮れる時代になっていると思うので、そこで何かちゅうちょしたことはないですね。最初はモノマネみたいな感じで、あの映画のこのところカッコよかったな…みたいな。ちょっとあれマネしてみようかな…みたいな。あのPVの流れスゴイいいんだよな…ちょっとマネしてみようかな…みたいな感じで、全然マネにもなってないんですけど、でもそれがつなげてみるとそれっぽくなったりとかして、「簡単じゃん！」「これなら私にもできる！」とか思ってたんですけど、でも勉強していくうちにドンドンおもしろいなって思うようになりました。

**米野**：今も最終的には映画を撮るために…すべてを学ぶためにLAとして働き始めたんですか？

**七田**：映画は作りたいと思っていて、最初は映画を作るために…どういうふうに映画が作られていくのかってこととかも全然わからなかったのが、全部1人でやるのかなみたいな感じで思っていて、そうしたら映像撮れないといけないな…と思って、早とちりしちゃって、それで「映像を撮れるようになりたいです。」って言ったら、カメラマンとか音声とかをす

る会社を紹介してもらって、そこではまずカメラマンになるために音声・照明として一緒にロケについていってカメラの周りのこととか現場のこととかも知っていきながら、カメラの勉強をするってことで今、音声・照明 (LA) をしています。

**米野**：じゃあLAがスタートポイントな感じですね。

**七田**：はい。

### 失敗から学んだこと：あらゆる事態を想定する

**米野**：これまで2年間ほどお仕事されてきて、何か失敗したことはありますか？

**七田**：失敗はたくさんしてきてるんですけど、LAって仕事が音を撮るってということだけじゃなくもっとそこにくっついてくるたくさんの仕事があるっていう意識が最初はなくて。遅刻をするとかあとは機材を大切にすることも仕事のひとつなんですけど、機材を返却する棚を間違えて返しちゃったりとか。

**米野**：焦っちゃいますね。

**七田**：あとは収録する前にレベルのチェックとかちゃんと、機械が動くかとかのチェックとかもしないといけないんですけど。そのときに新しく使うカメラの機材に音声を入力するときに、絶対カメラと音声機材のミキサーのほうで音の調整、レベルを合わせないといけないんですけど、そのときに新しく使う機材だったのに使いかたをちゃんと調べないで使っちゃって、レベルの調整がちゃんとうまくいってなくて音声が収録できてなかったという…。

**米野**：ああ、やばい。そのときどんなふうになん？

**七田**：そのときはICレコーダーっていうのを絶対にみんな持ってないといけないんですけど。ICレコーダーにも収録してたはずの音を間違えて焦っちゃって、つまみを間違えて上げちゃって、そっちも録れてなくて。

**米野**：ダブルで録り損ねちゃったってことですか。

**七田**：ダブルで録り損ねちゃって。で、結局そのときは街でインタビューするロケだったので。まだその日早めに終わって帰ってきて確認したときに、入ってないっていうのがわかったのでそのあとで夕方にまた行ったんですけど。行って。なんとかしてもらったんですけど。それは一番大きな失敗ですね。

**米野**：どう思われましたか？

**七田**：こういう失敗があるっていうふうに思ってなかったの、あらゆる事態を想定して仕事しないといけないんだなっていうふうに思いました。

自分がなぜこの仕事してるのかを忘れないようにしている

**米野**：七田さんは仕事で気を付けていることってありますか？

**七田**：仕事の本質とは違うところでつまらない失敗をしないこと。

遅刻しないとか機材の返却がちゃんとできてないとか、そういうつまらない失敗をしてしまうとみんながっかりしちゃうし、すごくマイナスなことなので、そういう基本的なところで失敗しないようにするってことは気を付けています。

あとは、自分が現場に行くにあたって自分が何をしに行っているのかってことを忘れないようにロケをすることを、気を付けています。ロケにみんなで行くにあたって一番大切なのは、番組にとっていい音が録れること、いい映像が撮れることであって、そのためにみんなが意図をくみながら現場の空気を読みながら対象者さんからお話を聞きだすっていうことをするためにやってるので、取材対象者さんと仲良くなりすぎてもダメだし、態度を悪くしてもダメだし、相手と関係性を保ちながら自分が音を録りに行ってるんだってことを忘れないように仕事をすることです。

**米野**：そういうことも、ちょっとずつやりながら自分で気付かれていったんですか？

**七田**：なんかそれも、いろんな現場に行く中で、ディレクターさんから言われたりとか、カメラマンさんから注意をされたりとか、いい番組を見たりとかしてその話を聞いたりとかしていくうちに、どういう仕事なのかなっていうことが少しずつわかったかなというふうに思います。

照明・音声 (LA) としてのやりがい

**米野**：LAという仕事に就いてよかったなと思うことや、やりがいってありますか？

**七田**：最初はやっぱりカメラマンになりたいなと思って入っていたので、自分がその勉強の期間なんだって思いながら最初のほうは仕事をしてたんですけど。でもその役割があるからその仕事があるのであって、失敗していい仕事はないし、インタビューも大切だし、撮ってる絵も大切だし、録ってる音も大切。それが全部あって、いい番組ができるんだってことがわかって。その中で、自分で音を選んだりとか、番組のことを考えて何かをしたときにそれが番組にとっていい効果が出たときとかはやっぱりうれしいなと思います。

**米野**：具体的にはどのようなことに注意してやられていますか？

**七田**：現場にいるといろいろなところがあって、ピリピリしてる場所とかもあるし、そういうところで一緒になってピリピリしちゃうたりしないようにしたりとかは気を付けたりしてます。

**米野**：そういうことに努めることで何か感謝されたことってありますか？

**七田**：たまにカメラマンの人とディレクターさんがピリピリしているときに、音声さんがいてくれてよかったよ…みたいなことを言ってもらえたりとか、気付いてもらえるとうれしいです。

**米野**：ほかにも何かやりがいってありますか？

**七田**：この仕事に就いてると、普段会うことができない人とか、すごいたくさん現場に毎日行くので、自分が普通に生活してたら会わなかったかもしれない人とか、自分からはその話

は聞きにいなかったかもしれない話とかを聞きにいけるのが楽しいです。あとはその現場に行き、自分が興味があったこととか自分が調べようと思ったことだったとしても、自分がディレクターだったらと思って質問しようと思うことと、ディレクターさんが不思議に思って質問することが違ったりして、自分ではその質問は思い浮かばなかったなっていう、その人の観点から新しいことを知れるのも楽しいです。

**米野**：仕事で大切にしていることって何ですか？

**七田**：仕事してたり忙しかったり、あと嫌なことがあったりとか、あとは自分が失敗しちゃったりしたときに、どうしても、ほんとうにこの仕事をしていていいのかなとか、なんでこの仕事やってるんだっけってことがわかんなくなっちゃうことがあるんですけど、いつも自分がやりたいことのためにやってたはずだから、それを忘れないように、自分がなんでこの仕事してるのかっていうのを忘れないように、楽しく仕事できるようにしています。

### コミュニケーションの取りかた：先入観にとらわれない

**米野**：コミュニケーションを取ることが苦手という高校生もいる中で、何かアドバイスをお願いします。

**七田**：私もコミュニケーション取るのすごい苦手で、人としゃべるのも苦手なんですけど、この仕事をして思うのは、自分が思いつかないことを人が知っていたりすることがたくさんあって、そのときにやっぱり自分が最初に持つてくる先入観とか、相手に対して感じた第一印象とかだけで決めてしまったりとか、コミュニケーションを断ってしまうと自分が成長するきっかけがなくなったりとか、自分が成長するためのステップを得られないことのほうが多いかなと思うので、限定しないで話せるようになったほうがいいのかなと思います。

### 高校生のみなさんへアドバイス：やりたいと思ったことを挑戦してほしい

**米野**：ではここで、就職でいろいろ悩んでいる高校生にアドバイスをお願いします。

**七田**：何かしたいと思ったときに、今の自分のことを見てもそれができるようになるとは思わないかもしれないけど、誰でも最初はできるわけじゃないから、とりあえずやりたいなって思ったことを挑戦してみたいなと思います。

**米野**：最近は就職してもすぐ辞めちゃったり、なかなか続かない人も多くなってると思うんですけど、そのことについてどう思われますか？

**七田**：私は働き始めて1年くらい経ったときに、ちょっと失敗しちゃって。で、それで続けていていいのかなと思って、辞めようかなと思ったことがあったんですけど、でもなんでやめようと思ったのかっていうのをもう一回考えてほしくて。どんな仕事してても自分の理想と違うことはたくさんあるし、自分が思うようにいかないこともたくさんあるかもしれないけど、それを続けていくことで、得る説得力とか得るものとかもたくさんあると思うから、ちょっと違うなと思って辞めないで、ちょっと踏ん張ってみるといいのかなと思います。

**米野**：踏ん張って一回考えてみる。そうですね。

こだわりの「音」

**米野**：七田さんが仕事の中で気に入っている音や、こだわりの音ってありますか？

**七田**：実際に多くの人がテレビを見ている絵ってというのは、取材を受けてるほうだけの絵だと思うんですけど、実際には後ろのほうにすごいたくさんの人がいたりとかして。で、そのカメラマンもそうだし、音声もそうだし、照明さんもディレクターさんも、すごいたくさんの人が後ろにいて。カメラが回った瞬間に、取材対象者さんと取材をする側の2人だけの声が響いているときの音が好きです。

**米野**：どうしてですか？

**七田**：実際にはたくさんの人が後ろにいるのに、カメラが回った瞬間だけ、そこにいるのがたった2人だけみたいな感覚がおもしろいと思うからです。



ミキサーを肩に掛けながらマイクを持つ！  
これは大変だ！

★夢に向かって進む途中で、ほかの仕事を経験しないといけない場合、あなたならどうしますか？

.....  
.....  
.....

★仕事が嫌になってしまったとき、あなたならどうしますか？

.....  
.....  
.....

★さまざまな人に会い、話を聞ける今回のような職業を、あなたはどのように思いますか？

.....  
.....  
.....